

令和二年度 一般入学試験 B日程 (令和二年一月十八日)
「国語総合」

戸田中央看護専門学校

一、次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

国語の長文問題は、
著作権の関係により公開できません。

(茂木健一郎『すべては脳からはじまる』中央公論新社、中公新書ラクレ、2006より)

問一、 傍線部(あ)～(お)のカタカナを漢字に直しなさい。

【記述式解答】

- (あ) ケンジョウ (い) タ (う) ヒソ (え) ヘンクツ
(お) リュウギ

問二、 傍線部(ア)～(オ)の漢字の読みをひらがなで記しなさい。

【記述式解答】

- (ア) 迫真 (イ) 飛来 (ウ) 尋常 (エ) 嘆息 (オ) 折衝

問三、傍線部（A）「何だか妙な気分」とあるが、この語句を最もよく説明しているものを次の1～4から選びなさい。 【解答番号1】

1. 若冲の絵は、ちよつと偏屈で、自らの流儀にこだわりがある京都人が書いたものだということが徐々に分かってきたということ。
2. 若冲の絵を見ているうちに、それが「京都」というものを具現しているように思われてきたこと。
3. なぜあのように細部にこだわる絵がうまれたのかを考えているうちに、頭がぼうつとしてきたこと。
4. 最後の京都の町衆という言葉聞きながら絵を見ているうちに、頭が混乱してきたこと。

問四、傍線部（B）「脳をめぐるパラドックス」とあるが、この語句を最もよく説明しているものを次の1～4から選びなさい。 【解答番号2】

1. 他者との交渉を絶ち、自らのうちに籠ることで脳の潜在能力が発揮されること。
2. 言葉やその他の手段を通じた他者との生き生きとした行き交いの中で、人間の脳の能力は発揮されるということ。
3. 人間の知性の本質は、他者とのコミュニケーションにあるとされるのに、他者との関係を絶って自らのうちに籠ることが必要になる場合もあること。
4. スムーズにコミュニケーションできすぎてしまう人は、かえって遠くまで達することができないということ。

問五、空欄 一 に入る表現としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。 【解答番号3】

1. いわば
2. しょせん
3. たかが
4. あくまでも

問六、空欄 二 に入る表現としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。 【解答番号4】

1. 不可能
2. 不可思議
3. 不可避
4. 可能

問七、空欄 三 に入る表現としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。 【解答番号5】

1. 主観
2. 万能
3. 普通
4. 普遍

問八、著者の主張に反するものを次の1〜4から1つ選びなさい。

【解答番号6】

1. 若冲は町衆という身分のおかげで、惜しみなく高価な顔料を使い、自らの流儀にことんこだわって絵を描くことができたからこそ、優れた作品を生み出すことができた。
2. 現代の脳科学では、人間の知性の本質は、他者とのコミュニケーションにあるとされているので、京都人のように偏屈で、自分の世界に籠っているのは、知性を発揮することができない。
3. 過剰なコミュニケーションを図らず、小さな世界に立て籠ることで、かえって世界全体に通じる発想を得ることができる場合もある。
4. 若冲の絵は、彼がちよつと偏屈で、自らの流儀にこだわりのある京都人だけでなく、生活の憂いのない、裕福な商人であったからこそ描けた。

二、次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

国語の長文問題は、
著作権の関係により公開できません。

問一、空欄へア～エ～に入ることはともともも適当なものを、次の1～4からそれぞれ選びなさい。

- | | | | | | |
|----|---------|---------|---------|----------|----------|
| へア | 1. いわば | 2. そうした | 3. むしろ | 4. あくまでも | 【解答番号7】 |
| へイ | 1. なるほど | 2. やはり | 3. しかし | 4. そもそも | 【解答番号8】 |
| へウ | 1. いわゆる | 2. つまり | 3. とはいえ | 4. いわば | 【解答番号9】 |
| へエ | 1. だが | 2. さらに | 3. もつとも | 4. およそ | 【解答番号10】 |

問二、筆者の主張を表しているものを次の1～4から選びなさい。

【解答番号11】

1. 紙の本を読むときに脳内で起こる事象は、チョムスキーの難解な理論で平明に説明できる。
2. 紙の本を読むとき、AIは文脈の流れを想像し、適切な展開を選びとることができる。
3. 教科書が電子書籍である場合、文脈を確かめながら行きつ戻りつ読むことができる。
4. 紙の書物ではパラパラッと繰って特定箇所を容易に見つけることができる。

問三、この記事の要約として適切なものを次の中から一つ選びなさい。

【解答番号12】

1. AIが人間を超えるという「シンギュラリティー」が実現しないことは、藤井聡太七段が指した「神の一手」からも明らかである。紙の本を全部電子化してしまったら、もう藤井さんの「神の手」は出なくなる。
2. 紙の本を読むときは、電子書籍とは異なり、実体に対する感覚から文脈の流れをつかみ、適切な展開を選びとることができる。もし教科書が電子書籍になったら、人間は思考や創造力まで失ってしまう。紙の本をなくすべきではない。
3. 「木を見て森を見ない」と言うように、物事の細部ばかり見て全体を見渡すことができればAIに負けてしまう。ここでいう紙の本はいわば森、AIは木である。
4. 「みにくいアヒルの子」という語句がなぜ直観的に「醜い、アヒルの子」という意味であると分かるかは、チョムスキーの言語理論で明らかにされている。

三、次の13～16のことばの使い方としてもっとも適当なものを、1～4からそれぞれ選びなさい。

【解答番号13～16】

13 アイロニー

1. 服にアイロニーをかけ忘れた。
2. このコメディ番組には独特のアイロニーがちりばめられている。
3. 友人代表のスピーチで、新郎との思い出を明るくアイロニーたっぷりに話した。
4. この静かなアイロニーに満ちた曲を聴くと、心が癒される。

14 異彩を放つ

1. 冷蔵庫の漬物の発酵が進んで異彩を放っている。
2. 近代的な建物が林立する中であって、本瓦葺きの店構えが異彩を放つ。
3. 西日が強烈な異彩を放ち、雲ひとつない空はまばゆい輝きに満たされていた。
4. 彼女の顔はとても柔和な異彩を放っていた。

15 昔取った杵柄

1. 我が家の新年の餅つきには、昔取った杵柄と臼がまだまだ役に立っている。
2. 歩いていたら、つまずいて転んでしまった。これも、昔取った杵柄のせいだ。
3. やはり昔取った杵柄だけあって、かなり朽ちている。
4. 祖母は久しぶりにお手玉を試みせたが、昔取った杵柄でとても上手だった。

16 他山の石

1. 隣町で事件が起こったが、しょせん他山の石だ。
2. ハイキングの記念に、つい他山の石を採ってきてしまった。
3. 尊敬する恩師の活躍を他山の石としたい。
4. 今回のA社に発生した問題は、この業界において他山の石となるだろう。

問四、次の文学作品の冒頭部分を読んで、それぞれの作者名を選びなさい。

【解答番号17～20】

17 山の手線の電車で跳飛ばされて怪我をした。その後養生に、一人で但馬の城崎温泉へ…

18 ではみなさんは、そういうふうには川だと云われたり、乳の流れたあとだと云われたり…

19 廻れば大門の見返り柳いと長けれど、お齒ぐる溝に燈火うつる三階の騒ぎも……山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。

1. 夏目漱石
2. 志賀直哉
3. 宮沢賢治
4. 樋口一葉